



■すばらしい自然環境(水質)

- 中津川小中学校 調査
調査実施日:平成17年8月17日 天気 晴れ
調査方法:パケットテストや水生生物指標による水質調査
中津川地区はとてもきれいな水が流れていることがわかりました。

参考:パケットテスト

小学校から大学までの環境教育・環境学習の教材として、また市民の環境測定活動等の簡易ツールとして、酸性雨や水道水、河川の水質調査等の目的で幅広く用いられている。pH、化学的酸素消費量(COD)、残留塩素、リン(酸)やアンモニウム測定等、様々な種類が発売されている。

パケットテストは、小さなポリエチレン製のチューブの中に調合された試薬が1回分ずつ密封入されており、一回ごとに使い捨てられる。使用するときチューブの上部にピンで穴をあけ、試験水を吸い込ませる。指定時間後に吸い込んだ水の色変化を標準色シートと比較し、同じ色、または似た色をさがして、そこに示された数値から測りたい水質の濃度等がわかるようになっている。(HPより)

参考:水生生物による水質判定

水質評価の仕方

水のきれいさの程度を「きれいな水」、「少しきたない水」、「きたない水」、「大変きたない水」の4階級に分け、それぞれの階級にすんでいる生物が示しており、見つかった生物が一番多い階級をその地点の水質階級とする。

	きれいな水	少しきたない水	きたない水	大変きたない水
指標生物名	カワゲラ	ヒラタドロムシ	ヒル	セスジユリスカ
	アミカ	イシマキガイ	タニシ	チョウバエ
	ブユ	カワニナ	ミズムシ	エラミミズ
	サワガニ	ゲンジボタル	ミズカマキリ	サカマキガイ
	ナガレトビケラ	オオシマトビケラ	イソコツブムシ	アメリカザリガニ
	ヤマトビケラ	コガタシマトビケラ	ニホンドロソコエビ	
	ヘビトンボ	ココニヤンマ	タイコウチ	
	ヒラタカカゲロウ	ヤマトシジミ		
	ウズムシ	スジエビ		

やったこと

水質調査の記録

実施日 平成17年8月17日
天気 晴れ

- | | |
|---|--|
| 1.白川 上原地区
遅谷橋下
水温:19°C 川幅:15m
流れの速さ:
毎秒1.2mの場所を実施 | 2.白川上流
大日杉小屋付近
水温:18°C 川幅:6m
流れの速さ:
毎秒1.0mの場所を実施 |
|---|--|

透明度 100cm
パケットテストによる調査

COD	0	COD	0
PO4	0.05	PO4	0.05
NH4	0.2	NH4	0.2
NO3	1.0	NO3	0.02
NO2	0.02	NO2	1.0

水生生物による水質判定 見つかった指標生物 ウズムシ1 ナガレトビケラ1 ヒラタカゲロウ13 ヘビトンボ1 結果:きれいな水	水生生物による水質判定 見つかった指標生物 カワゲラ2 ヒラタカゲロウ15 ブユ2 結果:きれいな水
--	---

■すばらしい自然環境(ホタル)

昔から見られていたホタルですが、最近は農薬などの影響もあり、見られなくなってきましたが、少しずつ増えているようです。それらを、中津川のみなさん全員参加で、近くの川や水田、水路などで見かけた情報をいただきながら作りました。このデータをもとに、来年は、現地に行ってみたり、もっとキラキラ部分があるかを調べてみましょう。

やったこと

- みんなでつくるホタルマップ
作業主体及び協力:中津川地区のみなさん
平成17年7月~
現地確認や口コミ情報を源流の森事務所に寄せてもらった。
- テーマ:ホタルの光を楽しもう。蛍から環境を見つめよう。
- 願い:ホタルを通じて自然環境の豊かさを知る、楽しめればいいな。ホタルを通じて地域全体が活気づけばいいな。

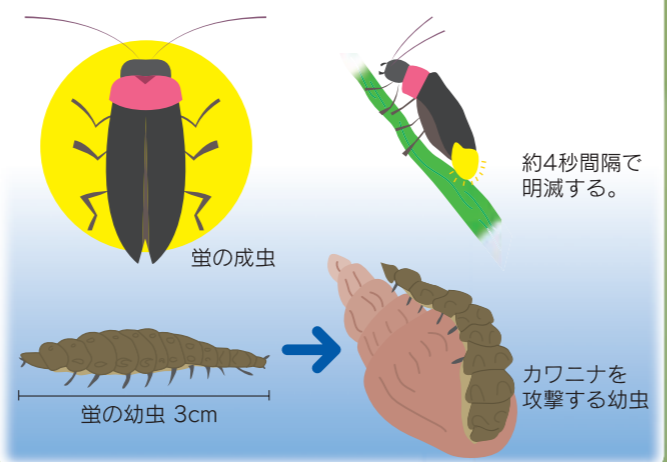
ホタル キラキラ調査シート		
地区 調査者氏名		
光っている日時	場所	目で見えた状況 (あてはまる番号に○をつけてください。)
		①すこくキラキラ ②キラキラ ③少しキラキラ

ほたるの棲息環境について 見頃は7月初旬です

どこで、見れるの?
蛍は、好天気よりも風の無いムシムシした日や、雨上がりの天気が好きです。成虫の蛍は葉っぱについた露しか飲まないためです。場所は、自然豊かな草むらのある小川などです。

蛍の光
成虫は、三日から1週間くらいしか生きられません。この間に、交尾をし、卵を産みつけることが必要です。そのために光を出して、メスを探しているといえます。

いつ見れるの?
蛍にはいくつかの種類があります。大きい蛍は源氏蛍と呼ばれ、光も明るいです。蛍も地域により見れる時期が異なります。これを蛍前線と呼んでいます。中津川は7月初旬です。発光時刻は、日没後約30分後から光始め、90分後あたりが一番光ります。



■生活を支えた橋(おさ橋)

- おさ橋を復元するワークショップ
作業主体及び協力:中津川地区のみなさん
復元場所:源流の森 森のミュージアム内
平成17年10月 ワークショップで製作

置賜白川沿いには、昔からおさ橋という木を伐ってつくった橋が多く架けられていました。橋は、生活を支える重要な建造物です。そのため、橋は地域の人々が、洪水や嵐にもまげずに頑張って守ってきたものです。

その橋の構造は、丸太に、横木を渡した簡単な構造ですが、流されても良いように、捻子(ねじ)などで一定の遊びをもたせながら結ぶことや、川の中に橋脚を作らない刎(はね)橋という仕組みを持つなど、自然の素材を活かした技法が、随所に見られる橋の原型となるものです。

この中津川地区や下流の手ノ子地区には、このおさ橋が昭和20年代までかけられていたということです。その後、これらの橋は随時、吊り橋やコンクリートの橋に替えられ、自動車の通行もできるようになりました。現在の道や橋の祖先であるおさ橋の文化は郷土の大事な宝です。

平成17年10月には、このおさ橋を、地域のみなさんのご協力を得ながら、復元することができました。

やったこと



調査のまとめ・問い合わせ先
山形県源流の森事務所 0238-77-2077
編集・発行 **白川湖畔交流ネットワーク**
〔中津川むらづくり協議会:中津川財産区管理会〕
〔株)緑のふるさと公社:山形県源流の森事務所〕
飯 豊 町:飯豊町教育委員会
最上川ダム統合管理事務所 白川ダム管理支所